

プロジェクトマネジメント学会四国支部報告

板倉 宏昭*

Activity Report of Shikoku Branch of The Society of Project Management

Hiroaki Itakura*

1. 四国支部研究会の報告

プロジェクトマネジメント学会四国支部では、平成 22 年度は、10 月に第 3 回研究会と 12 月に第 4 回研究会、平成 23 年 2 月に平成 22 年度総会・年次大会を実施いたしました。

年次大会・各研究会とも、大勢の会員の方々に参加していただき、活発な質疑応答、意見交換が行われました。

第 3 回研究会

日時：2010 年 5 月 12 日(水) 14：00～16：00
場所：香川大学幸町北（教育学部）キャンパス
研究交流棟 5F 研究交流スペース
講演：「情報化施工を支援するための施工情報管理プラットフォームの ASP サービス」
講師：株式会社キック 代表取締役社長
西垣重臣氏
出席者：33 名

公共工事入札は総合評価方式により行われる。総合評価方式において、競合他社との差別化を図る技術提案が求められ、情報化施工が重要視されるようになってきた。国土交通省によると、情報化施工とは、「建設事業の調査、設計、施工、監督・検査、維持管理という建設生産プロセスのうち施工に注目して、ICT（情報通信技術）の活用により各プロセスから得られる電子情報を活用して高効率・高精度な施工を実現し、さらに施工で得られる電子情報を他のプロセスに活用することによって、建設生産プロセス全体における生産性の向上や品質の確保を図ることを目的としたシステムである。」とされる。先ず、情報化施工の事例を紹介するとともに、抱える諸問題を示す。つぎに、これらの問題解決を支援する施工情報管理プラットフォームの枠組み、諸機能、プロジェクト・マネジメントとの関連などについて述べる。そして、この施工情報管理プラットフォームの適用事例を報告した。

第 4 回研究会

日時：2010 年 6 月 29 日(水) 14：00～16：00
場所：香川大学幸町北（教育学部）キャンパス
研究交流棟 5F 研究交流スペース
講演：「研究における PM 手法の効果について」
講師：香川大学総合情報センター・工学部 教授
今井慈郎氏
出席者：29 名



今井氏による講演

研究を成功裏に推移(できれば完了)させるためには、プロジェクト管理手法が必要であることは明確であろう。そこで、国際会議の発表研究などの事例に着目して、いくつかの研究実践状況を検討し、プロジェクト管理手法の効果について考察する。対象とする国際会議はいずれも欧州開催で、情報化推進(e-Society をテーマ)、ネットワーク研究(Networked Digital Technology をテーマ)および WWW および計算機応用(WWW/Internet, Applied Computing をテーマ)とする会議である。場所柄、西欧の事例が主体となるが、北米やアジアの事案にも言及する。また、発表者が関係するこれまでの研究の一部について、プロジェクト管理手法に照らしてその問題点や改善すべき事案について議論し、プロジェクト管理手法の必要性

や効果について具体的に考究した。

PM 学会四国支部総会・年次大会

日時：2011年2月15日(火)13:00～17:40
場所：香川大学幸町北（教育学部）キャンパス
研究交流棟 5F 研究交流スペース

共催：香川大学 大学院地域マネジメント研究科，
工学部，社会連携・知的財産センター技術
交流協力会

後援：四国経済産業局，香川県，特定非営利活動
法人 IT コーディネータ協会

出席者：39名

四国支部年次大会では，岩尾支部長の挨拶に続き，招待講演と5件の発表が行われました。

招待講演：

「プロジェクトにおける標準化徹底と現場力強化の取り組み」 池上弘之氏（NTT データ先端技術(株)）



池上氏による基調講演

以前から多くの組織がプロジェクト管理の標準化に取り組み，品質・納期遵守面で一定の成果を上げてきた。その一方で，プロジェクトメンバーが自立的に課題を発見・解決するモチベーションが低下し，それが健全なプロジェクト遂行に支障をきたしている状況が見られる。標準化の徹底と現場力強化の両立を目指す取組みを紹介した。

「情報システム開発の多国籍分業におけるPMの勘所」 三宅雅文氏（大連阿楽迪信息服务有限公司）

対日オフショア開発においては，PMツールの適用や日本の常識によるプロジェクト管理手法だけでは解決できない問題が発生する。異文化理解，コミュニケーション手法，教育を組み合わせ

たPMが求められている。



三宅氏による発表

「なぜプロジェクトは失敗するのか？
～プロジェクトを成功へ導く「eWモデル」のススメ～」 丸山武洋氏（株STNet）

現在のプロジェクトの成功率は30%といわれる中，何がプロジェクトの成功なのか，うまくいかない原因は何なのかを整理し，ユーザー／ベンダー間がWIN-WINの関係になれる”効果的な”開発手法について提案した。



丸山氏による発表

「プロジェクトマネジメント知識の適用についての考察」

金光 秀起（中央コンピューター(株)）

知識は実践して初めてスキルとして身につくものである。プロジェクトリーダーの立場でプロジェクトマネジメントの知識をどのように実践していけば将来プロジェクトマネジャーの立場になった時にスムーズに実践することができるかを考察した。



金光氏による発表

「七つの習慣とことのは」

大和田 昭邦氏 (㈱ダイナックス高松)

仕事や企業経営や社員教育で、モチベーションをどうするかとか日本人の人間力を強くするのはどうしたら良いかを考えさせられることが多い。これは自分自身をどう考えるか、どういう人間になったらいいかの問題であり、ライフワークでもある。現在のPMフレームワークだけではプロジェクトを成功させる知識体系を語りきれないということではないか。



松島氏による発表

2. 平成 23 年度の活動予定

平成 23 年度は、5 月、7 月、10 月と 12 月に研究会と、平成 24 年 2 月に年次大会を実施する予定です。

引き続き、ITC 団体 (ITC 四国, ITC かがわ) や ISO ネットワーク, 香川県情報システムサービス協議会, 香川大学知的財産・社会連携センターなどの団体との交流を深め, 幅広い方に研究会への参加を呼び掛け, 新規会員の開拓に努めたいと考えています。

四国支部お問い合わせ先

事務局：香川大学大学院地域マネジメント研究科
吉田, 中山

〒760-8523 香川県高松市幸町 2-1

TEL&FAX 087-832-1900

電子メール： office@italabo.com

ホームページ：

<http://www.italabo.com/PMshikoku/>



大和田氏による発表

「建築物イメージの定量化に関する研究」 松島学氏 (香川大学工学部)

建築物は数多くの図形で構成されている。基本的には四角形や三角形, 円形などである。完成した建築物自体が四角形や三角形の場合もある。本研究では人間は建築物を構成する基礎的な形に対し, どのような感性を持っているのかをアンケート調査から分析し, 定量的に表すことを目的とした。